

## 令和2年度 第73回 卒業式 式辞

暖かな春の光を浴びて、校庭の桜のつばみもふくらみ始めた今日の佳き日、四十木育友会会長様、保護者の皆様のご臨席を賜り、ここに第七十三回卒業式を挙行できますことを、心から御礼申し上げます。

九十五名の卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

ただ今、一人一人に手渡した卒業証書は、中学三年間の学びの証であるとともに、義務教育九年間の修了証でもあります。皆さんは、小学校入学の日から今日までの九年間、雨の日も風の日も毎日学校に通い、そこで多くのことを学び、様々な体験を通して、人として生きていくための基礎となる力を身に付けてられました。特に岩瀬中学校で過ごした三年間、中でも義務教育最後のこの一年は、いろんな思いが交錯し葛藤した忘れがたい時間だったのではないのでしょうか。

今年度四月、いきなりの臨時休校による先行きへの不安。学校再開はいつ？授業はどうなる？行事は？部活動は？過ぎていく時間をただ見送ることしかできない焦りと無力感。今まで積み重ねてきたこと準備してきたことは一体何だったのか？なぜ自分たちの代だけ？徒労感と喪失感でやりきれない気持ちになった日もあったことでしょう。顔や言葉に出さなくても、心の中では、不安や持って行き場のない怒り、悔しさが渦巻いていたはず。

それなのに、学校が再開してからの皆さんは立派でした。ネガティブな思いを決して表には出さず、日々の授業に落ち着いて取り組み、岩中生としてあるべき姿を背中で下級生に示してくれていました。生徒会が「生徒自治」の取組を力強く推進してくれたこともあって、学校生活は急速に軌道に乗り、新校舎に、また明るい声が戻ってきました。

その後の皆さんの活躍は目覚ましく、特に二学期最大の行事、体育大会と合唱コンクールでは、リーダーを中心に創意あふれる活動が繰り広げられ、岩中の文化は大きく前進しました。それぞれの行事をやり遂げた皆さんの、すがすがしい笑顔を忘れることはできません。一つ行事を終えるごとに皆さんは自信を深め、それと比例するように下級生から三年生への尊敬の気持ちが強くなっていくように感じられました。それは、逆境に遭遇しても腐らず挫けず前向きに立ち向かい、未経験の難題を克服することで経験値を高め、さらなる活躍のステージへと上っていく三年生の姿が「英雄」のように見えたからでしょう。コロナを乗り越え、下級生を引っ張り、学校を盛り上げてきたという自信。この先、どんな事態に出合っても「なんとかやっていける」という、その自信が、皆さんをさらに大きく堂々と見せているようでした。

不条理な現実にも誠実に向き合い、こんなにもたくましく成長された皆さん。これからの人生も同じです。生きていれば、幾多の困難に出合います。平坦な人生などありません。一つ一つ壁を乗り越え、一步一步成長していくのです。しかし、苦しいとき、思い悩むときは、岩瀬中学校で過ごした日々を思い出してください。ともに泣き、笑い、励まし合ってきた仲間、そして、皆さんの成長を粘り強く支えてくれた先生。彼らはずっとあなたとともにあります。遠く離れていても、自分は一人じゃない、この仲間といつもつながっている。その見えない絆を信じ、心の支えにして生きていってください。三年間、皆さんの成長を見届けてきた岩瀬中学校は、これからもずっと伊波世野の地から皆さんの人生を見守り、一人一人の幸せを祈りながら、エールを送り続けています。

最後に、お別れの時である今、心からの感謝を伝えたい。この一年間、本当にありがとう！私たち教職員は、君達三年生のことを、「ともにコロナを乗り越えていく同士」として心から信頼していました。そして、その信頼に君達はしっかりと応えてくれた。君達が最上級生でいてくれたから、岩瀬中学校はなんとかやってこられたのです。君達が下級生を正しくリードしてくれたから、岩瀬中学校はこんなにも成長することができたのです。本当にありがとう！下級生たちは、必ずや君達の誠実さと愛校心をしっかりと受け継ぎ、岩瀬中学校をさらに発展させてくれることでしょう。

終わりにになりましたが、ご臨席いただきました保護者の皆様。三年間、本校の教育に対して温かいご理解とご支援をいただき、誠にありがとうございました。今後も変わらぬご指導とご支援を賜りますようお願いを申し上げて、式辞といたします。

令和3年3月17日

富山市立岩瀬中学校長 高瀬 知郎